

1 次経済 2010 年 アウトラインセミナー

TAC証券アナリスト講座

経済担当：小川

はじめに ― 1 次経済本試験の概要

- 試験時間は 90 分、90 点満点。
- 問題数は概ね 55 問程度。すべて選択問題（4 択または 5 択）
- 大問は 4 つ。配点ウェイトは以下の通り。

【大問別の配点ウェイト】 新プログラム試験以降

	19 年春	19 年秋	20 年春	20 年秋	21 年春	21 年秋	22 年春
第 1 問 ミクロ経済学	19%	20%	24%	26%	27%	27%	27%
第 2 問 マクロ経済学	43%	44%	40%	38%	39%	39%	39%
第 3 問 金融論	20%	16%	16%	16%	13%	14%	14%
第 4 問 国際金融論	18%	20%	20%	21%	21%	20%	20%

- 第 1 問（ミクロ経済学）は、平成 19 年春から始まった新プログラム試験で初めて導入された。配点ウェイトは当初から上昇したが、最近では安定して推移している。
- 最も配点が高いのは第 2 問（マクロ経済学）であり、単独で約 4 割を占める。
- ミクロとマクロを合わせ、「経済学」と考えると、全体の 6 割強になる。
- 1 次レベルで学習する経済学の知識は、続く 2 次試験対策（論述試験）の基礎知識にもなる。特に、経済学を初めて学習される方は、1 次レベルの段階でしっかりと基礎知識を身につけておくと効果的である。

各分野の概要

① ミクロ経済学

- 個人や企業の経済活動についての意思決定（＝選択）や、財やサービスが取引される市場の役割とそのメカニズムについて学習する。
- キーワードとしては、需要曲線、供給曲線、市場均衡、消費者行動、企業の生産活動、不完全競争市場、余剰分析、市場の失敗、等が挙げられる。
- さらに、異時点間の効用を最大化する個人による「将来の消費＝貯蓄」の決定（異時点間消費理論）、将来の結果が不確実な状況での選択（不確実性下の選択）が取り上げられる。
- 他の経済主体の行動を勘案して意思決定が行われるケース（ゲーム理論）や、情報が十分に行き渡っていない場合の意思決定（情報の経済学）も試験範囲に含まれる。

② マクロ経済学

- マクロ経済学とは、一国経済を巨視的な（マクロな）観点から眺めて、その仕組みを分析する分野であり、一国全体の経済、金融が分析の対象になる。
- 国民所得統計（GDP）、IS-LM分析、AD-AS分析、フィリップス曲線、経済成長理論、等が取り上げられる。
- マクロ経済学は、本試験における配点ウェイトが最も高く（約4割）、続く2分野（金融論、国際金融論）の基礎にもなるため、幅広く学習しておく必要がある。

③ 金融論

- 金融論では、金融の基本的な機能・仕組みとともに、実際の日本の金融市場が取り上げられる。
- 金融政策の主体である中央銀行の機能や金融政策の運営について、日本銀行を素材に出題される。
- 政府による資金調達も金融論に含まれる。財政赤字の問題点や日本の財政状況が取り上げられる。

④ 国際金融論

- 国際金融論では、国際収支や外国為替レートの見方、理論的な決定要因の学習が中心である。
- 実質為替レート、金利平価説、購買力平価説、等の考え方と、それらを応用した理論モデルが紹介される。